

## 平成30年度 愛媛県視聴覚・情報教育研修会

**1 日時** 平成30年8月8日(水) 9:30～16:00 (受付9:00～)

**2 会場** 松前総合文化センター (ふれあい展示室・視聴覚室)

### 3 内容

9:00～ 9:30	<b>受付</b>
9:30～ 9:40	<b>開会行事</b>
9:40～ 10:40	<b>実践事例発表</b> 「ICT機器を活用した授業 実践事例」 西条市立東予東中学校 教諭 相原 麻衣 「主体的・対話的で深い学びへの質的変換のためにICTを効果的に活用する児童の育成 ～教職員の情報活用能力向上の研修を通して～」 松山市立小野小学校 教諭 中本 孝一・教諭 若宮 磯一 「効果的なICT活用の実践～タブレット端末を活用した実践事例～」 西予市立皆田小学校 教諭 橋本 達哉
10:50～ 11:40	<b>実践研究発表</b> 「学級内SNSを活用したメディアリテラシー育成の試み」 金沢市立大徳小学校 教諭 山口 眞希 「地域と学校を架橋するフォト俳句の創作・鑑賞活動」 松山市立椿小学校 教諭 石田 年保
11:45～ 13:00	<b>昼食・展示</b> (最新の情報機器・ソフトウェア・デジタル教科書等の展示)
13:00～ 14:20	<b>講演『新学習指導要領と情報活用能力』</b> 講師 鳴門教育大学 基礎・臨床系教育部 教職実践力高度化コース 准教授 泰山 裕 先生
14:35～ 15:55	<b>WS1</b> 「NHK for School×タブレット端末で2学期からの授業をバージョンアップ」 講師 金沢市立大徳小学校 教諭 山口 眞希 <b>WS2</b> 「スタート!はじめてのタブレット」 講師 松山市立北久米小学校 教諭 菅野 智雄
15:55 ～16:00	<b>閉会行事</b>

#### (1) 実践事例発表

西条市立東予東中学校の相原 麻衣先生、松山市立小野小学校の中本 孝一先生、若宮 磯一先生、西予市立皆田小学校の橋本 達哉先生に、先進的な取組やすぐ実践できるようなアイデア満載の発表をしていただいた。今後もより一層教育の情報化が進む教育現場で必要なことを、発表を通して考えたり感じ取ったりする参加者も多かった。

実践事例は、「平成29年度 愛媛の情報教育 第23号(情報教育委員会研究紀要)」として、愛教研視聴覚・情報教育委員会のWebサイトに掲載している。

## (2) 実践研究発表

### ① 学級内SNSを活用したメディアリテラシー育成の試み（概要）

小学校6年生の話合い活動におけるインターネット上でのコミュニケーションの様子を分析し、対面でのコミュニケーションと比較することで、どのような現象が見られるか、児童がSNSでのコミュニケーションをどのように捉えているかを明らかにした。その結果、対面で発言しなかった児童が、SNS上では投稿や返信コメントで考えを伝えていること、日常の発言頻度や対面の授業での発言数が多い児童ほど、SNS上での投稿や返信が多くなること、SNS上で共感を伝える行動は、対面での発言頻度に関係がないこと、SNS上でコミュニケーションをする相手と日常生活でよく関わっている相手については相関がないことなどが明らかになった。



### ② 地域と学校を架橋するフォト俳句の創作・鑑賞活動（概要）

松山は俳句の街であり、松山市立椿小学校の地域も俳句活動が盛んに行われている。しかし、児童の俳句に対する親和性はあまり高くない。もっと俳句に親しんでもらいたいという願いから、ICT及び地域文化や人材を活用したフォト俳句の創作・鑑賞活動を実践した。6年生が俳句を詠み、3年生が俳句に合う写真を撮影し、組み合わせフォト俳句を創作する。できあがったフォト俳句を、全校児童及び保護者・地域の方々と鑑賞会を行う。俳句と写真を組み合わせることで、写真が俳句の読みを補完したり、解釈の違いを顕在化したりして俳句の読みの可能性を広げるなど、いくつもの効果が見られた。また、本活動が新学習指導要領の社会に開かれた教育課程の一つのモデルとなったと考える。

## (3) 講演

午後の講演では、鳴門教育大学准教授の泰山 裕先生を講師として招き、『新学習指導要領と情報活用能力』の演題でお話をいただいた。

前半では、新学習指導要領の方向性と、学習の基盤となる資質・能力の一つである「情報活用能力」の定義や情報活用能力に含まれる内容の分類と体系表について解説していただいた。

情報活用能力を育成するために学校教育で想定される学習内容の中で「情報機器の操作技能」「情報モラル・情報セキュリティ」の他、頭の中での情報の操作方法を学ぶ「問題解決や探究における情報活用（プログラミングを含む）」は教科等の学習目標とも重なる部分があり、情報活用能力の定義は、「（頭の中で情報



を) うまく活用する力」と言い換えられるという話であった。また、「子どもに身に付けるべき思考力・考える力とは？」という質問をフロアに投げ掛けられ、暫く考える時間を設けられた。フロアからの回答を受けた後、授業中の「思考スキル」は19種類に分類できること、学習指導要領において、各教科の指導の中で「思考スキル」を指導し習得させること、「情報活用能力の思考力・判断力・表現力」は「考えるための技法」を用いて情報を整理する力を育成することが掲げられているということを説明された。

後半では、「考え方」を示し補助するためのツールである「思考ツール」についての解説があった。例題を基に演習を行った後、思考ツールには20数パターンのものであり、どの場面でどのツールを使えば有効かは、どんな思考を求めているかによって変わり、授業の目標に合わせて選択するとよいことや、思考ツールは思考スキルとセットで用いることが必要という説明があった。

思考スキルの一覧

授業の中の「考える」の種類

多面的にみる	変化をとらえる	順序立てる
比較する	分類する	変換する
関係づける	関連づける	理由付ける
見通す	抽象化する	焦点化する
評価する	応用する	構造化する
推論する	具体化する	広げてみる
要約する		



最後に、大阪市の公立小学校での思考ツールの活用場面の事例紹介があり、「情報活用能力育成に向けた授業づくり」の要点として、①何ができるようになっていれば教科学習が進むか(どんな子どもを育てたいのか)を見つける、②情報を活用する必要がある(せざるを得ない)状況を作り出す、③そのために必要になる知識・技能を教科の中で指導する、の3点が肝要であるということを説明していただいた。

#### (4) ワークショップ1・2

##### ① WS1 「NHK for School×タブレット端末で2学期からの授業をバージョンアップ」

金沢市立大徳小学校の山口 眞希先生に「メディアタイムズ」の「第3回写真はありのままを伝えている？」を使ってワークショップを行っていただいた。「メディアタイムズ」を全体で視聴して、写真の撮影技法について理解を深めた。また、写真の加工はどこまで許されるのかという番組の問いかけについて参加者全員で考えた。心情円グラフを活用した対話方法についても学ぶことができた。

その後、参加者3人組で1枚の写真にキャッチコピーを付けて1つの商品をアピールするワークショップを行った。タブレット端末を活用し、写真にキャッチコピーを入れたポスター制作を行った。最後にできた作品を全員で作品を鑑賞した。最後に、観光用パンフレット作成の実践の紹介を通して、映像表現活動における児童の学びについて考えた。



## ② WS2 「スタート！はじめてのタブレット」

松山市立北久米小学校の菅野 智雄先生に、タブレット端末の初級編のワークショップを行っていただいた。児童が初めてタブレット端末を使うとき、どんな授業をすればいいのか、簡単なスキルで「主体的・対話的で深い学び」を実現するにはどのように活用したらいいのかを、模擬授業を通して考えていった。

模擬授業1では、グループごとのチーム名を相談し、タブレット端末を利用してみんなに紹介する活動を行った。「撮る・書き込む・見せる」という基本的な操作方法を学んだ。グループのメンバーの共通点を見付けようと話し合ったり、協力してタブレット端末の操作をしたりすることで、自然と話し合い、教え合う姿が見られた。

模擬授業2では、学習支援ソフトウェアの機能を使って、かさクイズを作ったり、平行四辺形のかき方を説明したりした。算数の練習問題もタブレット端末を活用すれば意欲的に学習し合えることや、相手に分かりやすく説明するには何をポイントにしてスライドを作ったらいいかを、タブレット端末とグループのメンバーと触れ合いながら学んでいった。

最後に、タブレット端末を活用したミニ実践事例紹介を行った。今日体験した「撮る・書き込む・見せる」という簡単な機能を活用することで、児童の主体的・対話的で深い学びにつながる授業ができるというイメージを膨らませることができた。



## 4 アンケート結果（参加者の声）

### （1）アンケート結果

（アンケート 55 人回答）事例発表について・・・	とてもよい（67%）	よい（33%）
（アンケート 58 人回答）講演について・・・	とてもよい（71%）	よい（29%）
（アンケート 44 人回答）WS 1 について・・・	とてもよい（75%）	よい（25%）
（アンケート 17 人回答）WS 2 について・・・	とてもよい（82%）	よい（18%）

### （2）参加者の声

- ・ 簡単にタブレット端末が使えることが分かったのでよかった。
- ・ たくさんの実践事例を聞いたり、その資料をもらったりしたので、授業に生かしたい。
- ・ 具体的な内容で、とても分かりやすかった。2学期から、タブレット端末を子どもたちと使ってみる。
- ・ できることから実践していこうと思う。分かりやすい説明等で、少しでも実践意欲がわいた。

- ・ 実際に活用できるようなワークショップ型を取り入れてくれてありがたかった。とても分かりやすかった。思考ツールに関する話が、これから子どもたちに考えさせるときに活用できそう。自分の中の「考える」について、そのときそのとき明確にしていきたいと思う。
- ・ 実践できて楽しくやることができた。子どもが主体的に考えることができるので、タブレット端末のよさを生かした授業を行いたい。
- ・ 「考える」ということについて、改めて考える機会を与えていただいた。
- ・ 学校にはタブレット端末は無く、導入するまでなかなか遠い道ですが、今後も情報を集めていきたいと思う。
- ・ 様々な取組を知ることができてよかった。石田先生の発表が楽しかった。心情円盤も使いたい。
- ・ ワークショップの広告作りは子どもたちにやらせても、本当に喜んで取り組むだろうなと思った。
- ・ 子ども目線に立って実習する時間もあり、実用的な内容で自分にできることがからやってみようと思った。
- ・ 子どもが興味をもつ導入に、必要感をもつ場の設定に役立てたいと思いました。
- ・ シンキングツールをうまく利用することで、話合いの質を向上させることができると思った。
- ・ 思考ツールを使って、考えの補助をするという視点が勉強になった。
- ・ 今回の研修の内容の中で、本校で検討している「思考」について、勉強になった。めあてを明確にして、思考ツールを上手く使っていきたいと思う。
- ・ 学校によって、端末のOSが異なると思うので、両方の端末のよい点や使用の違いなどを知りたい。
- ・ 各実践事例についての資料があった方がよい。
- ・ タブレット端末の事例についても参考となるアプリなど、紹介をして欲しい。
- ・ 県の研究として、アプリ（活用できる）の研究をして、広く伝えて欲しい。
- ・ 授業で使えるアプリ集などを教えて欲しい。